

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 濱田学園  
認定こども園 石原幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・四季折々の野菜を、種や苗から植えて育て、自分たちが全てに関わることで育てる心を養う。
- ・命あるもの全てを大切に育てる。
- ・失敗してもその物事に頑張る心、負けない心を育てる。

2. 本年度重点的に取り組む目標

- ①職員の農作物の知識向上
- ②職員間の連携
- ③地域との連携

3. 評価項目の計画及び取り組み状況

○取組と成果に関する評価 A:達成している B:一部達成している c:一部改善を要する D:改善を要する

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	評価に関する説明・意見書
①職員の農作物の知識向上	野菜を育てたり収穫する中でいのちのつながりを伝えていく	1	栽培や食事を通し、命をいただく大切さに気付けるような幼児を育てる	4	1	「いただきます」と言って食べることの意味が子ども達に伝えられるようになった	3.7	A	・春の七草や、おせちについて日本に伝わる大切な風習について知ることができた。 ・収穫から実際に調理して食べることで「命をいただく」ということへの関心はもてるようになっていく。
		1	子ども達の気付きや発見、活動に応じて栽培物の生長に気付くような表示や掲示物を工夫する		1	子どもの心の動きを捉えた環境構成の工夫が、食べる喜びや楽しさにつながった			
		1	園庭の夏野菜を子どもと一緒に見たり散歩に行きながら稲の生長を楽しむ		1	野菜の特徴(色・形・香・花・実など)を知ることができた			
		1	年間計画の作成をする		1	保育者がいろいろな野菜に興味関心を持つようになった			
②教職員間の連携	職員間のコミュニケーションをはかり、互いを理解し合える関係を構築する	4	園内研修を年5回行い、学んだことを情報共有し、自分の保育に活かす	3.5	4	互いにアドバイスを受け入れたり、学び合う事で子どもの理解が深まった	3.4	B	・年間を通して異年齢のクラスとの交流を行いながら行事を進め職員同士の保育の準備の助け合いもできつつある。 ・行事が多い月や学期は園内研修の継続が難しいこともあった。 ・気になる子についての様子や担任の取り組み、今後の援助の仕方について共有することができた。
		3	園内研修において学年に関係なく他学年の指導計画も把握したり、また、職員間の対話を大切にする		3	経験に関係なく意見を出し合いながら対話できるようになった			
		2	毎日の伝達会議において日々のエピソードトークをする		2	子どもの姿を伝えたり、保育の悩みを職員で気軽に相談し合う姿が見られるようになった			
		1	園務の内容を理解し共通理解を図る		1	職員同士で互いの役割を理解し、協力していくという姿勢が見られるようになった			
③地域との連携	地域交流を通して地域の人達と触れ合うことで石原幼稚園の保育を地域に拓く	1	勤労感謝の日などに訪問したり、子ども達に感謝の気持ちを育む	3.6	1	さまざまな職業を知ることきっかけになったり、地域の方への感謝の気持ちを持つようになった	3.8	A	・地域の方々への園での行事等や取り組みについて、動画等で発信することはできた。また、徐々に子育ての楽しさを共有できるよう無理のない範囲で一年を通して計画できるようにしたい。(未就園児受け入れ等) ・保育参加や懇談会では、普段なかなかゆっくり話せないことなどを話すことができ、園児の様子を共有し合える良い機会となった。
		1	行事ごとにSNSを活用し、地域や保護者の方々に子どもの様子を発信する		1	元気いっぱいの子どもの様子を見せて元気づけたり、子ども成長を見せることができた			
		1	公開保育(親子クッキング)などを通して、園に足を運んでいただき園の様子を伝える		1	園での様子を見たり、行事の楽しさを知ることができた			
		1	散歩に出かけ、地域の人とあいさつを交わす機会をつくる		1	地域の方に挨拶を交わしたり保護者・保育士以外の大人と触れ合うことができた			